

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リニエブラツクずは		
○保護者評価実施期間	2026年 4月 1日		～ 2026年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	2026年 4月 1日		～ 2026年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ST・OT・保育士・心理士等の専門職による直接的な関与を通じ、多角的なアセスメントに基づいた個性の高い支援を展開しています。	お子様の意欲を引き出す「遊び」の要素と、自信に繋がる「成功体験」を軸とした、心理的安全性に配慮した環境設定を行っています。	療育後のフィードバックを強化し、家庭との一貫性のある支援を共有することで、日常生活における療育効果の定着を図ります。
2	発達段階に合わせた適切な課題設定により、無理なくステップアップできる達成感を重視した支援を実践しています。	定期的な事例検討会を実施し、スタッフ間で多職種連携を図りながら、支援内容の客観的評価とアプローチの改善を継続しています。	地域社会との連携深化。学校や福祉機関との情報共有を密にし、生活圏全体で児を支える包括的なサポート体制を構築します
3	「5領域」を網羅的に捉え、特定のスキルに偏ることのない多面的な発達支援を提供しています。	個別支援計画を形骸化させず、児の微細な変化に応じて柔軟にプログラムを修正し、常に最適な目標設定を行っています。	アセスメントの高度化と専門性の追求。新たな評価指標の導入やプログラム開発を推進し、内部研修の充実により支援の質を底上げします。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外部に向けた事業所の視認性や周知不足。初見の方に支援内容が直感的に伝わりにくい側面があります。	標準化された客観的評価指標(尺度)の運用が一部に留まっており、データに基づいた根拠の提示に課題を感じています。	看板や案内板の設置、事業所のパンフレットの内容を充実させて、事業所の役割や支援内容が視覚的に伝わる工夫をしたいと思います。
2	集団療育の機会不足。個別支援に注力するあまり、対人スキルや社会性を育む「小集団での関わり」が限定的です。	記録や報告の共有に時間を要し、保護者様への詳細なフィードバックが一部で不足、家庭連携の質にバラつきが生じています。	採用活動の継続による体制強化と並行し、スタッフの多機能化を図る研修を実施。集団療育の枠組みを段階的に拡充します
3			